

2 21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築【H19～H27 事業費1,156,802 千円】

より多くの県民の方から森林との関わりを深めてもらう機会を創出するとともに、森林や自然環境に対する理解を深め、森林を県民みんなで守り育てる意識を醸成するため、地域のボランティア団体や市町村、企業が主体的に取り組む森づくり活動への支援を行ってきました。また、自然環境学習の推進や生物多様性の保全、野生動物との共存にも支援しました。

(1) 県民参加の森づくりの推進【H19～H27 事業費1,033,694 千円】

ア 県民みんなで支える森・みどり環境公募事業【H19～H27 事業費 241,817 千円】

NPOやボランティア団体等の多様な主体が取り組む森林・自然環境学習や豊かな森づくり活動等に対して支援しました。公募形式にすることで、団体等の自主的な取組みを促し、地域への着実な定着を図りました。

また、平成24年度からはテーマ助成を設け、環境保全に関わる重点的テーマのもと実践的な森づくり活動や自主的、持続的な活動を行う団体の育成を目的に支援を行いました。

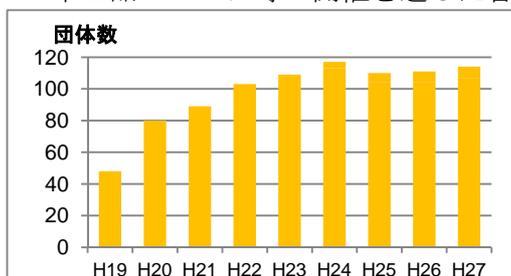
◇主な取組み

活動内容〈一般助成（H19～H27） 1事業の上限 50万円 / 基本計画年数 1年〉

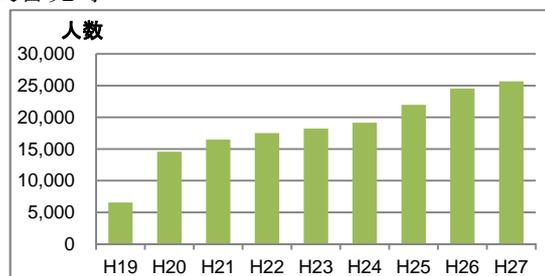
- ・子どもたちを対象にした森づくり体験活動等
- ・河川の水質環境保全、希少野生生物生息地の保全等
- ・地域住民との協働による森づくり活動等
- ・森林資源の利活用（県産材や木質バイオマスの普及啓発等）

活動内容〈テーマ助成（H24～H27） 1事業の上限150万円 / 基本計画年数 3年〉

- ・間伐材や林地残材を活用したエネルギー利用等
- ・里山資源を活用し、里山をフィールドとした多彩な交流等
- ・木工品のフェア等の開催を通じた普及啓発等



森づくり活動団体数の推移



活動参加者数の推移

◇実績

- ・森づくり活動団体数は48団体（H19）から114団体（H27）へ、活動参加者数は約6,500名（H19）から約25,700名（H27）へ増加しました。

◎事業の成果

- ・森づくり活動への参加者数が前回の見直し以降も増加傾向にあり、年間の森づくり活動参加者数の約4分の1を占めるなど、県民参加の森づくりを推進する大きな役割を果たしています。
- ・前回の見直し以降も森林ボランティア団体だけでなく、自治会や子供会、幼稚園等の幅広い団体からの応募があり、県民みんなで支える森づくり活動が更に広く浸透し、森林に関する地域活動の活性化が図られています。
- ・テーマ助成では、単年度の活動では不可能な大きな課題の解決に有効であり、森づくり活動の拠点づくりや地域連携等に効果を上げています。

イ みどり環境交付金事業【H19～H27 事業費 783,335 千円】

地域における住民の意向や実情に精通している市町村が、独自性を発揮して創意工夫を凝らした森づくり活動等を実施できるように支援を行いました。

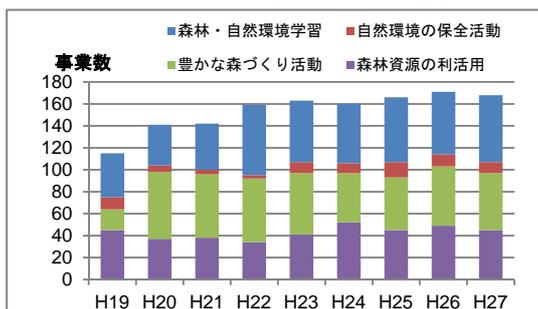
平成24年度からは特認事業を設け、県が重視する施策の実施に向けて支援を強化しました。

◇主な取組み

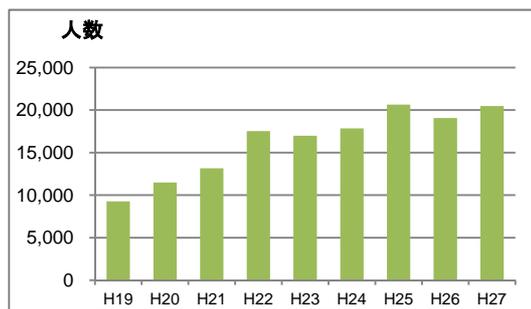
- ・子ども達を対象にした森づくり体験活動等
- ・河川の水質環境保全、希少野生生物生息地の保全等
- ・地域住民との協働による森づくり活動等
- ・県産材や木質バイオマスの普及啓発等

※上記の対象項目のほか、以下の「特認事業」を設定しました。

- ・木質バイオマスの利活用 ・里山再生に向けた新たなシンボルゾーン設置
- ・野生動物と共生するための緩衝林帯の保全活動



事業数と事業内容の推移



活動参加者数の推移

◇実績

・事業数は115事業 (H19) から168事業 (H27) へ、活動参加者数は約9,300名から約20,000名 (H27) へと増加しました。

◎事業の成果

- ・前回の見直し以降も、森づくり活動への参加者数は増加傾向にあり、年間の森づくり活動参加者の約5分の1を占めるなど、県民参加の森づくりを推進する大きな役割を果たしています。
- ・一部の市町村では、地域住民や地元企業、大学、市町村内の他部局等と連携し、地域課題を的確に把握した事業を立案するなど、独自性を伴う事業が展開されています。
- ・緩衝林帯の整備により、クマやサルなどの野生動物との共存に寄与しています。

多様な森づくり活動の状況



森林環境教育



薪割り体験



キノコ植菌体験



自然体験学習会



地域住民による
森づくり活動



希少野生植物観察会

ウ やまがた絆の森プロジェクト推進事業【H21～H27 事業費 8,542 千円】

企業等による森づくり活動を支援するとともに、森づくり活動の成果が実感できる仕組みにより、森づくり参加者の拡大と森林によるCO₂の吸収源対策を推進しました。

◇主な取組みと実績

(ア) 企業の森づくり

〈参加企業・団体数と活動参加者の推移〉

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
9企業	14企業	27企業	27企業	27企業	31企業	32企業
			3,574人	3,626人	3,084人	3,477人

(イ) CO₂森林吸収量等評価認証

〈森づくり認証されたCO₂吸収量の推移〉(t-CO₂/年)

H22	H23	H24	H25	H26	H27
261.1	444.0	334.6	161.5	192.0	426.8

- ・参加企業・団体数は、9企業・団体(H21)から32企業・団体(H27)へ増加しました。
- ・活動参加者数は、3,000人から3,600人程度で推移しています。
- ・CO₂森林吸収量は、約190(t-CO₂/年)から約440(t-CO₂/年)程度で推移しています。



絆の森協定締結式



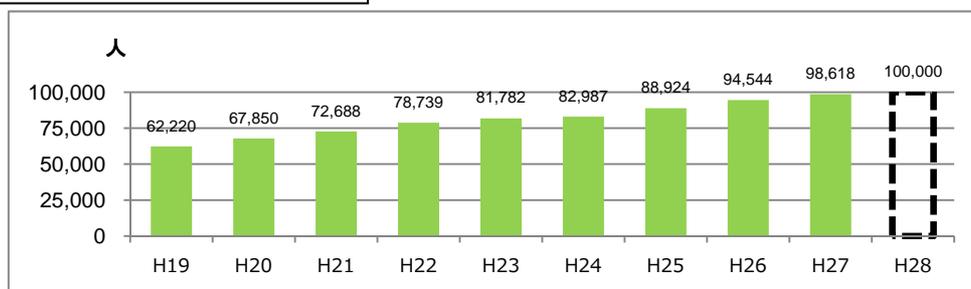
絆の森参画企業による森林整備活動



◎事業の成果

- ・企業等による環境貢献や社会貢献の具体的な取組みとして実施する森づくり活動への支援より、里山資源の活用や地域交流の拡大など地域の活性化が図られています。
- ・企業等が実施した森づくり活動による環境貢献の成果をCO₂森林吸収量として数値化し、取組み成果の「見える化」を図ったことで、企業等の森づくり活動への意欲が高まり、活動が活性化しました。

森づくり参加人数の推移



森づくり参加者数の目標を、「税創設から10年目(平成28年度)の年間参加者数10万人」とし、様々な活動及び普及啓発を展開してきました。

その結果、森づくり参加人数は税創設時の62,220人から平成26年には94,544人と約1.5倍に増加しており、平成27年度は目標参加人数98,000人を上回りました。

現在でも増加傾向が続いており、平成28年度の10万人達成に向けて順調に推移しています。

(2) 自然環境保全対策の推進 【H19～H27 事業費 78,495 千円】

森林・生物環境の異変を早急に察知して早期に対策を講じるため、動植物の生息・生育動向などの自然環境の変化を継続的に監視するとともに、野生動物との共存を図りました。

ア 生物多様性戦略推進事業【H19～H27 事業費 48,279千円】

山形県生物多様性戦略に基づき、生物多様性の保全・創造・活用に向けた取組を推進しました。また、森林生態系をはじめとする自然環境について、動植物の生育・生息動向等の総合的なモニタリングの実施や、山形県レッドデータブック（植物編）の改訂に向けた調査・検討等を行ないました。

◇主な取組みと実績

(ア) ブナ・ナラ豊凶調査 (H19～)

- 動物の生息動向に影響を与える堅果類(ブナ、ナラ類)の豊凶調査を実施しました。

(イ) 自然生態系保全モニタリング調査 (H19～)

- 動植物の生息・生育状況調査により、山岳森林地帯や里山の自然環境の異変を早急に察知しました。
- 山形県レッドデータブック（植物編）の改訂を行いました。(H25)

〈自然生態系保全モニタリング調査箇所数の推移〉

H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
14箇所	7箇所	13箇所	12箇所	6箇所	6箇所	5箇所	3箇所	5箇所



ブナ・ナラ豊凶調査



県レッドデータブック
(植物編) 改訂版



自然生態系保全
モニタリング調査報告書

◎事業の成果

- 秋のクマ出没と一定の関連性があるブナの豊凶について、予測結果を県ホームページ等で広く公表することで、クマの出没に関する地域住民の不安解消に寄与しています。
- 県レッドデータブック（植物編）の改訂調査により、新たに154種の絶滅危惧種が確認されました。

イ 鳥獣保護管理法推進事業【H24～H27 事業費 6,324 千円】

本県が定める第二種特定鳥獣管理計画策定のため、生息動向調査を継続して実施するとともに、計画の評価・検証を行いました。

◇主な取組みと実績

- 森林被害が発生するおそれのあるイノシシやニホンジカ等の生息動向調査で生息数を把握するとともに、ツキノワグマやイノシシについては第二種特定鳥獣管理計画を策定し、管理を行ないました。
- 大型野生動物に対する緩衝林帯の有効性等を検討するため、生息動向や被害状況等の調査を実施しました。

◎事業の成果

- 大型野生動物の管理計画の策定及び生息動向や被害状況調査により、里地への出没被害対策に寄与しています。

ウ 総合クマ対策推進事業【H25～H27 事業費 6,429 千円】

クマの地域個体群の安定維持及び人との軋轢の緩和を図ります。

◇主な取組みと実績

(ア) ツキノワグマ生息状況調査 (H22～) [H24まで自然環境モニタリング事業]

- ・県内に生息しているツキノワグマの密度の増減を把握し、適正な保護管理を行うための基礎資料としています。

〈調査年度と実施山系〉

H22	H23	H24	H25	H26	H27
5山系	4山系	7山系	7山系	8山系	8山系

(イ) 共生の担い手育成 (H25～)

- ・受講者約360名のうち、約8割が狩猟免許を取得しました。



カメラトラップによる生息状況調査



共生の担い手講習会

◎事業の成果

- ・山形県ツキノワグマ管理計画の策定に寄与しました。
- ・野生鳥獣との共生の担い手が、約280人増加しました。

エ 大型鳥獣等野生復帰事業【H20～H27 事業費 11,840 千円】

人と自然が共生する森づくりの一環として、森林生態系を支える多様な野生鳥獣の保護に資するため、傷病等で救護又は捕獲された鳥獣の野生復帰のための総合的な治療訓練、移送、放鳥獣等を行いました。

◇主な取組みと実績

- ・傷病等で救護又は捕獲された野生鳥獣の野生復帰のための総合的な治療、訓練、移送、放鳥獣等を実施しました。

〈実施年度と対応実績〉

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
8件	9件	15件	6件	9件	19件	25件	28件



捕獲したクマの治療



捕獲したクマを奥山へ放獣

◎事業の成果

- ・傷病等で保護された野生鳥獣を治療後、奥山へ移送し、放鳥獣することができました。

(3) 自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進【H19～H27 事業費 44,613 千円】

環境学習の意欲増進と環境教育の充実のための具体的施策として、県内の小学生等が学校教育や様々な学習の中で森や自然に親しみ、学ぶ体制を構築するため、森林環境学習における指導者の育成及び森林環境学習の副教材や活動手引き等の作成・提供を基本に事業を展開しました。

ア 自然環境学習推進事業 【H19～H27 事業費 13,611 千円】

学校教育における森林環境学習を支援するため、教員を対象に、森林や林業に関する知識、森林を使った環境学習の手法等について研修を実施するとともに、森林環境学習を実践するための副教材等を作成し提供しました。

◇主な取組みと実績

(ア) 学校林環境学習指導者研修 (H22～H26)

- ・森林環境学習の手法についての研修を実施しました。(H19～H23 7回)
- ・学校林を活用した森林環境学習指導者研修を実施しました。(H22～H26 31回、8小学校)

(イ) 森林環境学習副教材等の作成 (H19～)

- ・小学生の森林や自然環境に対する理解向上を図るため、小学校5年生を対象に副教材44,700部、ガイドブック5,200部を作成、全小学校に配布しました。(H24～)
- ・ポケット版ガイドブック「森のたんけん手帳」23,500部を作成し、市町村等へ配布しました。(H26～)



副教材

◎事業の成果

- ・学校林を活用した森林環境学習を推進することができました。
- ・小学生の森林や自然環境に対する理解の向上を図ることができました。

イ 総合支庁実施事業 【H19～H27 事業費 28,045 千円】

自然環境学習に関する地域の課題解決のため、各総合支庁が独自事業を展開しました。

◇主な取組みと実績

地域	事業名	内容
村山	村山版森のようちえん拡大支援事業 【H20～H26】	自然の中で行う幼児教育または保育を普及
	里山の森づくりサポーター育成事業 【H24～】	県民の森での森の案内人育成研修
最上	最上の自然環境教育マスター養成事業 【H24～】	遊学の森での森の案内人育成研修
置賜	「動物共存の森」学習体験事業 【H19～H24】	野生動物との共存できる森づくりに関する現地研修
	おきたま森林・自然環境学習推進事業 【H19～】	源流の森での森づくり活動の推進、指導者育成研修
	みんな一緒に森林活動フィールド振興事業 【H19～】	障害者を対象にした自然環境学習
庄内	出羽庄内公益の森づくり事業 【H19～】	庄内海岸における多様な保全活動

◎事業の成果

- ・延べ358人が森の案内人講座に参加し、99人を新たに森の案内人として登録しました。
- ・指導者育成研修の受講者や講師間での活発な意見交換により、自然環境教育に関するネットワークが広がりました。
- ・障がい者の森林体験活動のための意識とスキルの向上を図ることができました。

3 新たな森づくりの推進体制の整備【H19～H27 事業費 216,386 千円】

県民各層の代表者で構成する第三者機関として「やまがた緑県民会議」を設置し、やまがた緑環境税の使途や施策効果の検証などを行うとともに、啓発行事の開催やテレビ・新聞などの広報媒体を活用して県民参加の森づくりを県民に広く普及啓発し、県民参加の森づくりに対する意識の醸成を図りました。

また、県民による森づくり活動等を側面からサポートする「やまがた公益の森づくり支援センター」を中心に、ボランティア団体等の森づくり活動を支援しました。

(1) 推進体制の整備【H19～H27 事業費 97,201 千円】

ア やまがた緑県民会議【H19～H27 事業費 8,753 千円】

やまがた緑環境税を活用する施策を適正かつ効果的に進めるため、外部委員による第三者機関として設置（H19.5）し、緑環境税充当事業の効果の評価、検証、施策等の制度・仕組みの点検、見直しに関する協議、公募事業の採択の可否についての意見の具申等を行ないました。

◇主な取組みと実績

- ・毎年3～4回開催し、やまがた緑環境税を活用する施策が適正かつ効果的に進められているか検証しました。



会議の状況



森林整備実施箇所現地視察

◎事業の成果

- ・やまがた緑県民会議による税事業の評価・検証により、透明性の高い事業執行がなされています。

イ 森づくりサポート体制推進事業【H19～H27 事業費 88,448 千円】

県民参加の森づくり活動を支援するため、森づくり活動への指導者派遣や森づくり情報の発信など、森林ボランティア団体等を総合的にサポートしました。

◇主な取組みと実績

(ア) 森づくりサポート体制推進（やまがた公益の森づくり支援センター）

- ・森づくりに関する情報収集、情報提供及び相談受付
- ・森林ボランティア活動への支援
- ・森づくり活動や森林環境学習への支援
- ・地域森づくり活動報告会（H19～）
- ・企業の森（やまがた絆の森）づくり活動の支援及び活動の普及啓発（H21～）
- ・森づくりサポーターの育成（H24～）

(イ) 森づくり支援人材育成事業（山形県森林研究研修センター）

- ・森林ボランティア団体等の活動を支援するための人材を育成
- ・森づくりサポーター研修終了者数は 34名（H24～H27）

◎事業の成果

- ・森づくり活動団体の総合的な指導・支援を行うことができます。
- ・森林ボランティア団体等の活動を支援するための人材（森づくりサポーター）を、34名育成しました。

(2) 普及啓発の強化【H19～H27 事業費 119,185 千円】

ア みどりの循環県民活動推進事業【H19～H27 事業費 68,898 千円】

県民に森づくりの大切さについての理解を深めてもらうと共に、県民みんなで支える森づくりの気運を一層高めるため、「やまがた森の感謝祭」などの開催や普及啓発活動を実施し、県民に「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途等、制度全体の仕組みの周知を図りました。

更に、平成27年度から「第38回全国育樹祭」により高まった森を守り、育てていく機運をさらに県民参加の森づくりにつなげるとともに、本県の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として暮らしに活かし、次世代に引き継ぐ「みどりの循環県民活動」を推進しました。

◇主な取組みと実績

(ア) 普及啓発

- ・やまがた森の感謝祭の開催（県内4箇所のご総合支庁の持ち回りで年1回）
- ・地域感謝祭の開催（県内4箇所のご総合支庁で年1回程度）
- ・森づくりリレーの実施（各団体や企業の森づくり活動をリレー旗でつなぐ活動）

(イ) 広報・周知

- ・広報番組、広報誌による広報活動
（県のホームページ、県民のあゆみ、YBC「やまがたサンデー5」、YTS「提言の広場」、森林やまがた、広報誌「もりしあ」、リーフレットの配布等）
- ・憲章入りリサイクル鉛筆による普及啓発
- ・シンボルマーク焼印入りのコースター等の間伐材製品の配布
- ・やまがた緑環境税活用事業実績集の作成
- ・やまがた緑環境税のパネル展示（林業まつり、やまがた環境展、県庁ロビー、各ご総合支庁ロビー、公共施設、大型ショッピングセンター）
- ・税を活用して作製した木製品へのやまがた緑環境税マークの焼印の押印や、税の文字入り木製プレートの掲示

(ウ) みどりの循環県民活動の推進

- ・間伐体験会、木工体験、木質バイオマスエネルギー体験会の開催
- ・家庭でどんぐりの苗を育てる森のホームステイの実施



やまがた森の感謝祭



みどりの環境税広報誌
「もりしあ」



やまがた緑環境税
木製プレートの設置



間伐体験会



森のホームステイ



竹のポット苗

◎事業の成果

- ・やまがた森の感謝祭や各地域の感謝祭により、多くの県民から森づくり活動を体験していただき、森づくりの大切さについて実感してもらいました。
- ・税の趣旨や活用事業を県民に対して広く普及啓発に取り組んだことにより、森づくり活動への参加者が毎年増えており、県民みんなで支える森づくりが広がっています。

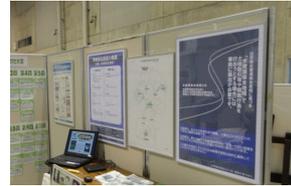
イ 水資源保全推進事業(森林の水源かん養機能の理解促進)【H26～H27 事業費 430千円】
 水資源の保全と森林の水源かん養機能の維持の大切さについて広く県民の理解を図り、森林整備や森づくり活動などの取組みを推進しました。

◇主な取組みと実績

- ・水資源や森林の水源かん養機能の重要性を普及啓発するためのパンフレットを作成しました。(H26)
- ・水資源と森林の保全に関する「美しい水と森のフォーラム」を開催しました。(H27)



美しい森と水のフォーラム開催



やまがた環境展 2015 でのパネル展示

◎事業の成果

- ・水資源や森林の水源かん養機能の重要性について理解が得られました。

ウ やまがた緑環境税広報事業【H19、H24～H27 事業費 29,874 千円】

路線バスへのラッピング広告の掲載、コンビニエンスストア店舗での広報やタウン情報誌への広告掲載など多様な媒体を活用してやまがた緑環境税について広く県民に周知し、やまがた緑環境税基金を活用した事業の必要性及び重要性を啓発しました。

◇主な取組みと実績

- ・県広報媒体(県民のあゆみ、県政テレビ「サンデー5」、ラジオ)による普及啓発(H19)
- ・インターネットでのバナー作成(H24 4,451クリック)
- ・路線バスにラッピング広告を掲載(H25 2ヶ月間、各総合支庁管内)
- ・県内のファミリーマート各店舗においてレジ液晶ポップ及び店内BGMによる広報を実施(H26 3週間)
- ・タウン情報誌「月刊山形ZERO 23」(10月号:14,000部発行)への広告掲出(H27)



路線バスのラッピング広告



「月刊山形 ZERO23」への広告掲出

◎事業の成果

- ・森づくり活動参加者数や活動団体数が増加しており、県民みんなで支える森づくりの着実な推進に寄与しています。